

第5章

1. 東日本大震災からの復旧・復興②

副読本
36～37ページ

年 組 番 氏名

4

復旧・復興に関わっている人の思いから、自分の将来において、復旧・復興に関わっていけることを考えてみましょう。



復旧・復興に関わっている人の思い



少しでも早く、そして安心して住める場所をつくってあげたい

いしどう みさと
石堂建設（美里町）
建築部第一課課長 たかはしよしゆき
高橋義幸氏



いしのまき
石巻市の災害公営住宅工事を担当している。

災害公営住宅の工期は決まっているのだが、「少しでも早く、そして安心して住める場所をつくってあげたい」。私は、この思いを現場のスタッフや作業員にも周知した。

この災害公営住宅への入居者はすでに決まっていると聞く。引き渡しは早まることはないかもしれないが、私にできることは、少しでも早く建物が完成した姿を見せて安心させてあげることだと思う。

建物は、鉄筋コンクリート構造で、約20工種の業者の協力が必要だ。中でも型枠・鉄筋・左官業は特に不足しており、業者の決定には非常に苦慮した。

内陸の私たちと、沿岸部で被災しながら仕事をしている人たちの気持ちは違うが、「職員や作業員が一丸となってこの工事や沿岸部の復興に貢献できれば」という思いで現在の仕事を進めている。

震災後、復旧工事が終わり復興に向けてまちづくりが始まる。土地を造成し、建物を建設し、地域に貢献することが地域建設業の責務だと思う。例えば、震災後の迅速なインフラ整備の対応やメンテナンス対応などで、まだまだやれることはたくさんある。今後も地域建設会社の特性を生かし、地域から信頼され、よりよいものを地域に構築することが、まちの発展につながるはずだ。



(出典：3.11 東日本大震災 宮城県建設業協会の闘い3〔宮城県建設業協会〕より抜粋)

建設中の災害公営住宅